

2024（令和6）年度決算について

学校法人大手前学園
理事長 福井 要

2024（令和6）年度学校法人大手前学園の決算は、有限責任監査法人トーマツ並びに監事の監査を経たうえで、2025年5月27日（火）開催の理事会で承認されました。ここに決算概要の説明と決算諸表の公開を以下のとおり行います。

【決算概要】

(1) 資金収支計算書

資金収支計算書は、年度の諸活動に対応するすべての資金収入と資金支出の内容と支払資金の顛末を明らかにする書類です。ここでは、予算額との比較で説明します。

2024年度の決算は収入の部合計で、4億7百万円増の114億80百万円となりました。これは主に資産売却収入が当初の予想よりも上回ったことによるものです。

一方、支出の部では主として施設・設備関係支出、資産運用支出が当初の予想より下回ったため翌年度繰越支払資金を除く支出合計で8億94百万円の減少となりました。

結果として、翌年度繰越支払資金は、13億1百万円増の31億85百万円となりました。

活動区分による資金収支の状況は、教育活動による資金収支差額が8億55百万円の収入超過、施設整備等活動による資金収支差額が10億13百万円の支出超過、一方でその他の活動による資金収支差額が3億20百万円の収入超過となりました。これにより、支払資金の増減額は1億62百万円の増加となりました。

(2) 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、事業活動収入と事業活動支出の内容を明らかにし、その均衡状態（経営状態）をあらわすもので、企業会計の損益計算書に該当するものです。ここでも予算額との比較で説明します。

事業活動収入計は76百万円増の70億23百万円、事業活動支出計は1億66百万円減の66億85百万円となり、その結果基本金組入前当年度収支差額は、予算額より2億42百万円多い3億37百万円の収入超過となりました。

活動区分毎に見てみますと、教育活動収支は、収入面で学生生徒納付金や手数料の増加により、45百万円増の68億21百万円となりました。一方で支出面は、主として教育研究経費や管理経費の減少により、1億34百万円減の66億36百万円となりました。結果、教育活動

収支差額は、予算額より 1 億 79 百万円増の 1 億 86 百万円の収入超過となりました。

教育活動外収支は、収入の部で受取利息・配当金が予算より上回ったことから、教育活動外収支差額は、24 百万円収入増の 1 億 2 百万円の収入超過となりました。

特別収支は、収入面で現物寄付によるその他の特別収入等で 5 百万円増加したものの、支出面で資産処分差額が 17 百万円増となったため、特別収支差額は、10 百万円支出増の 49 百万円の収入超過となりました。

(3) 貸借対照表

貸借対照表は、期末における学園の財政状態を示します。ここでは、前年度決算額との比較で説明します。

まず、資産の部ですが、有形固定資産は、新棟竣工に伴う建物・建物附属設備や機器備品等の増加により、2 億 31 百万円の増加となりました。また、特定資産も 30 百万円増加しました。

一方で、その他の固定資産が主に有価証券の減少により 7 億 47 百万円減少したため固定資産全体では 4 億 85 百万円の減少となりました。

流動資産は、現金預金の増加等により 1 億 66 百万円の増加となりました。

結果として、総資産額は、3 億 19 百万円減の 411 億 60 百万円となりました。

負債の部では、借入金の返済等により、負債合計で 6 億 56 百万円の減少となりました。

従いまして、純資産額(総資産額・総負債額)は、前年度末に比して 3 億 37 百万円増の 377 億 98 百万円となりました。また、総資産額に占める割合(純資産比率)は、前年度末より 1.5 ポイント増の 91.8%となりました。

尚、各々の科目の数値については、別掲の「資金収支計算書」「事業活動収支計算書」をご覧ください。また、経年の比較と財務比率等については、「事業報告書 財務の状況」をご覧ください。

以上